

# 農漁業にドローン活用

## 浜松のNPO法人 本年度に実証実験

小型無人機「ドローン」の活用促進を目指して産学でつくるNPO法人「ふじのくにSKYイノベーション」(浜松市中央区)が発足し、二〇一六年度にミカンの植生調査やカツオ漁にドローンを活用する実証実験に取り組む。生産性向上や経営

効率化に向け、先端技術を活用した新しいビジネスモデルを提案し、一次産業の活性化につなげたい考えだ。―関連①面

ミカンの植生調査は、県農林技術研究所果樹研究センター(静岡市)に協力して六月ごろから予定している。ドローンでセンタールの研究施設のミカン畑を空撮して樹木の生育状況を把握し、効率的に収穫作業ができるシステムの開発を計画している。日照条件に左右されるため、同じ畑でも収穫は場所によって時期が異なる。実験ではドローンの

映像を基に樹木ごとの日射量や果皮の色をセンサーで調べ、甘味を分析。収穫適期の樹木から計画的に少人数で収穫できるようにする。茶畑でも同様の実験に取り組む予定だ。

カツオ漁の実証実験は、静岡市の水産研究機関や焼津港に拠点のある漁業会社と共同で実施する。カツオを巨大な網で囲い込む「まき網漁」で、魚の群れを探る際にドローンの空撮映像を活用する。現在は船に有人ヘリコプターを搭載して出漁している。ヘリと操縦



者をセットでレンタルすると、漁業会社一社あたり年間六千万円ほどの費用がかかる。ドローンに切り替えることで、大幅なコスト削減が見込めるといふ。

SKYイノベーションは、県内外の企業や大学の

研究者や技術者ら三十団体・社の三十八人が参加し一月に発足した。ドローン研究の一線で活躍している静岡理工科大の増田和三教授らがメンバーで、農林水産業や土木工事などの分野へのドローンの普及や安全教育を活動方針に掲げている。

このほか老朽化した橋梁を点検する実証実験も計画する。近づいて撮影する場合の衝突防止カバーや点検しにくい橋げたの下を撮る際に伸ばすアームなど、各場面に応じたドローンの付属機器の開発にも着手。安全な運用システムや点検手法の確立を目指していく。

(瀬戸勝之)